

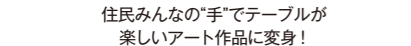
2,500世帯5000人が住むマンモス団地で、日本人と外国人住民の割合がほぼ半々という川口市の芝園団地を紹介します。

イベントを通じて進む日中交流

芝園団地は日本人の高齢者世帯と子育て中の外国人世帯が増加しています。その多くは中国人で、言葉や文化の壁に世代の壁も加わり、住民同士の交流がなかなか進みませんでした。

「まずはコミュニケーションを取ることが必要」。芝園団地商店会の呼びかけで芝園団地自治会やUR埼玉地域支社が協力し、2013年12月に初めて商店街広場で「二ハオ芝園フェスタ」を開催。翌年の10月、11月には「芝園にぎわいフェスタ」を行い、公民館や幼稚園を利用している中国人住民に声を掛け、ボランティアで通訳や中国語の司会をしてもらったり、中国家庭料理ブースを出店してもらうなど、協力をしてもらいました。広場に設けられたステージでは、毎回民族舞踊や子どもたちによるダンスが行われ、多くの家族連れで賑わいます。2015年は七夕、ハロウィンなどの季節のイベントを行い、手探り状態で始めたイベントも徐々に盛り上がりを見せ、年々その規模も大きくなっています。

また、芝園団地自治会は、斬新な発想と行動力を持つ大学生に自治会活動に協力してもらおうと、近隣の大学に通う大学生に直接声を掛けて協力を依頼。賛同した大学生たちが自ら「日中住民の架け橋となる活動をしたい」と「芝園かけはしプロジェクト」を立ち上げました。その第一弾として、2015年4月、団地内の机や椅子に書かれた外国人住民に対する心ない落書きを消し、住民たちの手形で彩るアートを作成。地道な活動で2014年4月に7世帯だった中国人自治会員も翌年は30世帯に増え、初めて中国人住民の役員も誕生しました。



住民みんなの“手”でテーブルが楽しいアート作品に变身!

住民からは「日本人と外国人住民との距離が近くなった」「日本の文化をもっと知りたいので日中の主婦で料理を教え合う機会をつくってほしい」という声も聞かれます。

芝園団地自治会には、“国籍・年齢を問わず誰もが住みやすいまち”のモデルケースとして今後も住民同士のコミュニケーションの輪が広がってほしいと思います。



特集

私たちの住むまちをのぞいてみよう!

—外国人と共に暮らし、共に地域を支える—

Part 1

海外への事業展開を見据え、留学生を積極的に採用し、発展、成長している川島金属株式会社を紹介します。

外国人留学生の採用、活躍が海外進出の足掛かりに

川島金属は、以前から中国、台湾、韓国の協力メーカーへの発注や新規開拓を行っていましたが、文化や商習慣の違いから思うように進展せず大変苦労していました。にもかかわらず、当時は外国人の雇用には必ずしも積極的ではありませんでした。しかし、2011年にパートとして採用した元留学生の中国人女性が中国語、韓国語、日本語を使いこなす大活躍。この中国人女性との出会いが川島金属を変えました。

「優秀な留学生を採用し、協力メーカーとの交渉を担当してもらえばいい」と気づいたのです。そしてすぐにこの女性をグループ会社の正社員に登用したところ、結果は自明でした。その後、製造部にも留学生を数人採用しました。2014年にグローバル人材育成センター埼玉(GGS)主催の合同企業面接会に参加し、翌年4月に入社したばかりの中国人女性社員は、12月には部長の中国出張に随行。通訳としての能力を発揮し、今後も中国語を活かした活躍が期待されています。同社員は「プレッシャーはありますが、やりがいがあります。ここで長く働きたいです」と目を輝かせて語っていました。このような取り組みにより、社内の雰囲気も変わってきました。社員たちの国際感覚が磨かれ、互いに切磋琢磨して仕事に励むようになりました。

川島金属では、働きやすい職場環境をつくるため、社員同士のコミュニケーションを図る場を多く提供しています。また、日本語が不慣れな社員に対しては、先輩外国人社員が通訳し、仕事をサポートするほか、慣れてきた社員には、日本語での会議の聞き取り・筆記をさせ、日本語向上のフォローもしています。住居面の経済的支援も行っています。同社では人事評価も待遇も国籍は関係ありません。

今後は中国への駐在所設置や東南アジア向けの販路拡大を計画していて、既にベトナム人留学生の採用を決めています。語学力に優れ、やる気のある総合力の高い外国人とともに、社員一人ひとりが、そして会社全体が成長していく川島金属を応援していきたいと思っています。



今後も活躍が期待される外国人社員たち

\*川島金属株式会社…川口市に事業所を置き、金型用、各種鋼材、非鉄金属の材料販売や特注モールドベース(土台)の製作、金型設計製作、部品加工の製作を行っている。1966年創業。



近年、日本でも“シェアハウス(ゲストハウス)”と呼ばれる宿泊施設が増えていきます。

25か国以上100人以上が住む国際的的大型シェアハウス「J & Fハウス藤」を紹介します。

違う国、違う年代、違う価値観だからこそおもしろい! 日本人と外国人との共同生活

「J & Fハウス藤」には、英国、スウェーデン、サウジアラビア、アメリカ、韓国、中国、ブラジル、メキシコ、ネパールなどの外国人と日本人が共同生活を送っています。住民の年齢は10代~60代と幅広く、留

学生や企業研修生、外国人旅行者などさまざまです。毎日夕方になると共用のキッチンやリビングに自然と人が集まり、自国の料理を振る舞ったり、レシピを教え合ったり。冬はこたつを囲んでおしゃべりをします。

週末には歓送迎会やパーティーをして歌やダンスで盛り上げられます。以前住んでいた人が遊びに来ることも。「この人は家族同然。すぐ会いたくなるんです」そう話します。また、廊下の壁には『わたしは“帰る”じゃなくて“帰国する”。ハウスはわたしの家ですから』と書かれたメモが貼ってありました。みんな自分の家のようにくつろぎながら異文化交流を楽しんでいます。市の公共施設でサッカーやバスケットボールをしたり、地域のイベントにも参加したりして日本文化への関心や理解が深まった住人もいます。「ますますこのまちが好きになった」「まちの役に立てることがあれば手伝いたい」という声も聞かれます。「J & Fハウス藤」ではこれからも異文化交流を楽しみながら、地域とのつながりが広がっていくと思います。



毎回パーティーは大盛り上がり!